

先端研究推進センター

1985（昭和60）年4月に医学部附属動物実験施設として設置され、2004（平成16）年4月にHBS研究部へ移管、2003（平成15）年4月に発足した先端医療研究資源・技術支援センターとともに2009（平成21）年4月に総合研究支援センターとなり、2015（平成27）年4月に医歯薬学研究部総合研究支援センターと組織名称を変更し、大学の研究支援・推進に貢献してきた。

さらに、2019（平成31年）4月に大学院医歯薬学研究部総合研究支援センターで担ってきた機能を全学組織に移行することにより、より高度なレベルで全学的視点から総合的に支援・推進するための施設となった。

『バイオイメーjing部門』は、基礎研究の成果を臨床応用に橋渡しすることを目的としたトランスレーショナル研究では欠かす事のできない基盤技術を用い、機器と人材を集約させることで分子から個体までを対象にマルチ

モーダルなイメージング解析を可能にする全国にも類を見ない研究拠点であり、分子から動物個体までを対象とする最先端イメージング研究支援活動を幅広くサポートしている。

『動物資源研究部門』は、国立大学におけるマウス飼育匹数では第9位にランクする国内有数の動物実験施設であり、大学院医歯薬学研究部、先端酵素学研究所、研究クラスター、ポストLEDフォトニクス研究所等の研究者が、動物愛護に配慮した最先端の動物実験を実施するための研究支援を行っている。そのため、全学規模の胚生殖工学支援や微生物学的検査、動物実験講習会を通じて、特定病原体が存在しないSPF環境下における実験動物の飼育管理と動物実験実施者の資質向上を図るための教育を行っている。

バイオイメーjing研究部門が提供する 分子/細胞/個体をカバーするイメージング基盤



Optical imaging

in vivo imaging



動物資源研究部門



- 動物実験施設管理 01
- 胚生殖工学支援 02
- 定期微生物検査 03
- 動物実験講習会 04
- 動物実験書類の事前審査・管理 05

